

令和 6（2024）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6 月 1 日 / 年度末 3 月 1 日
氏名	井上 勝
国文学科	准教授
学科以外の兼務職	図書館長

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の 5 つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会や FD 委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて 3 年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
基礎力プログラムⅠ（初年次教育）	国文	1
基礎力プログラムⅡ	国文	1
情報資源組織論	国文	1
情報資源組織演習Ⅰ	国文	1
情報資源組織演習Ⅱ	国文	2
情報サービス論	国文	1
情報サービス演習Ⅰ	国文	2
情報サービス演習Ⅱ	国文	2
図書館サービス概論	国文	1
インターンシップ	国文	2
ボランティア	国文	2
学校図書館メディアの構成	子ども	2

②担任制度

担任（1 年生）	有	担任（2 年生）	有
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会	委員	SD 委員会	委員
研究倫理委員会	委員	地域連携委員会	
危機管理委員会	委員	入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会	委員	広報委員会	
認証評価準備委員会	委員	高大接続・連携委員会	委員
図書委員会	委員長	保育・教育実習運営委員会	
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD 委員会		授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	委員長
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	委員

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ 3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【国文学科】 魅力ある授業と学生支援を実施し、成果を学内外に発信する。
個人の教育理念・目標	基本的な姿勢として、本学の教育理念、建学の精神に基づき、個々の学生が社会人として、また、職業人として、調和のとれた人間形成を行っていくための支援を確実に行っていく。 滋賀県内で唯一の司書養成課程を持つ本学への社会的要請に応えるべく、県内及び周辺地域の図書館と情報を密に、連携を進めるとともに、現場で求められる司書となるべく、実務的な能力を身につけるとともに、困難に直面したとき、適切な判断ができるよう、よって立つべき基本的な考え方、理論も伝えていく。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	司書養成のための司書資格に関する授業において、基本的な理論を伝えていくに際して、30年余の実務経験を踏まえ、現場ではそれらをどう展開し、活かしていくのかを説明し、自身が実際に図書館現場に立った時、どのような司書でありたいか、どのような図書館としていきたいかということを年間に2～3回考えて文章化させた。また、公立図書館を見学することや、展覧会やコンサートなどの文化事業に参加することを勧め、基本データをまとめることやその感想を文章化することを行った。 私自身が滋賀県・福井県・岐阜県などの図書館をできるだけ実際に訪れ、施設や実際に行われている図書館サービスを確認し、インターンシップや図書館見学の受け入れが可能か等について調査を行い、それらの情報を授業等において学生に還元した。
授業以外（学生支援等）	学校生活になじめない学生、慣れない1人暮らしや、授業を受けることに困難を感じている学生から具体的に困っている事を聞き取り、問題点をときほぐしながら、学生に寄り添い、その困難を一つ一つ解決すべく話し合った。 就職活動について、図書館司書の採用を中心とした情報を提供するとともに、地方公共団体の受験、図書館司書の採用試験等に際して、書類の書き方、面接時の答え方等を模擬的な形で行う等実践的な対応を行い、受験時の不安感をやわらげるようにアドバイスを行った。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	学生の授業理解、図書館サービスの実際像の構築において、理論のことばだけでは、入っていきにくい知識を具体的なことがらとして整理し、実感として受け入れることにより、徐々に、具体的なイメージを伴う図書館司書像を描けるようになっていった。 学生自身の中での司書像を、より上手に文章化できるようになっていった。 結果的には、滋賀県内の図書館4館で10人、福井県内の図書館1館で1人ではあるが、図書館でのインターンシップを実施することができ、地域の図書館をより身近に感じ、図書館で働くイメージをより具体的に持つことができるようになっていった。
授業以外（学生支援等）	すべての授業において、すべての学生が溶け込むことは残念ながらできなかったが、出席不足による単位未取得という事態は避けることができた。また、学校生活に馴染めないことによる不登校、退学ということはなかった。 就職活動においては、昨年度に引き続き、現役生に、図書館司書の専門職採用される学生があった。また、正職員採用には至らなかったが、正規職員を目指し、図書館現場で、会計年度任用職員として、採用された学生もいた。

5. 目標（今後どうするか）

授業	今年度から、1年生、2年生双方の授業を担当することとなった。持ち上がりの2年生の授業では、1年生で積み上げてきた図書館および、司書についての知識をより深め、また、実践的なものとするべく、演習的な要素を増やし、ディスカッションや発表というアクティブな学びの要素を加え、また、今年度同様、現場での対応力をつけるための図書館現場の情報を授業で活かせるように、現物の提示や映像によるイメージ化等、より工夫を凝らしていく。 また、新1年生についても、今年の授業を踏まえ、引き続き、現場のリアルな情報に基づいた知識の伝達につとめ、自身で考えること、話し合い等により考えを深めること、そのうえで図書館現場での実際のサービスとの比較をすることというより、プラグマティックな疑似体験的な要素を加味していきたい。 私自身が、学生の出身地及び、その周辺の図書館を、昨年度及び今年度同様に、引き続き訪問し、学生と実際の図書館の施設、サービスについて語り合えるようにしていきたい。また、インターンやボランティア等の関係を築ける図書館を増やし、その情報を学生に提供し、実績を積み重ねていきたい。
授業以外 （学生支援等）	今年同様、学生に寄り添い、学生生活に支障が出ないようにサポートしていくと共に、私自身も支援する力のスキルアップのために研修受講等の自己研さんに努めていきたい。 具体的には、学生が、社会にでていくためのサポート、就職支援につとめたい。公務員採用、図書館司書の採用に関する情報収集につとめ、今年同様、書類作成のアドバイス、模擬面接を行う等今までの私自身のキャリアを活かした就職サポートに努めていきたい。

6. 重点目標に関する自己点検・評価（特に努力した2項目）

教育活動	図書館司書を目指す学生には、単に図書館司書の資格認定のために、国の規定マニュアルをこなす授業にとどまらず、図書館現場に出て、実際に業務を行ったときを想定し、自分で考え、行動できる判断の基礎となる力をつけてもらうことを目指した。2年生の授業においては、ほぼ想定していた授業を行うことができた。また、学生の方から自主的に正規の授業以外に学ぶ場を求められ、秋学期に補修授業という形で、分類演習及び基本図書に関する講義を行い、想定以上の出席を得、実践力を高めてもらうことができた。 ただ、1年生については、昨年度の反省に基づき、より体系的な形で実践演習を行ったが、理解度をきめ細かく確認することをおこなったため、上滑りとなった面もあった。新2年生となる来年度はその点を踏まえ、フォローをしていくとともに、新1年生については、理解度の確認をよりまめにおこなっていききたい。
就職活動支援	就職を前提とした、図書館の現場体験のプログラムの内、昨年度実施できなかった、1年生を対象とした、夏季休暇時の図書館ボランティアを今年は開催することができ、2年生からの参加もみられた。また、1年生春学期の図書館インターンシップについては、実施館、参加者とも昨年度を大きく上回り、初の実施となる図書館も開拓できた。 実際の就職については、昨年度、本人の熱意に合わせる形で、きめ細かな試験対策指導を行い、幸いにも現役で京都府内の市立図書館に司書の専門職としての合格者が出たが、本年度も県内の市立図書館に現役で、2人の司書専門職の合格者を出すことができた。また、将来の正職を目指す形で、会計年度任用職員として、図書館司書の道を歩み始める学生も出てきた。 本学が、再来年度末をもって閉校することとなったため、就職活動を行う学生としては、あと2年ではあるが、図書館司書養成課程を持つ滋賀県唯一の高等教育機関として最後まで、その職を目指す学生をより、力強くサポートしていきたい。

7. 記載内容に関する根拠資料

①令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	シラバス	
②令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	科目別成績分布状況	
③令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	担任一覧表	
④令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	委員会構成名簿	
⑤令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	組織図	以上